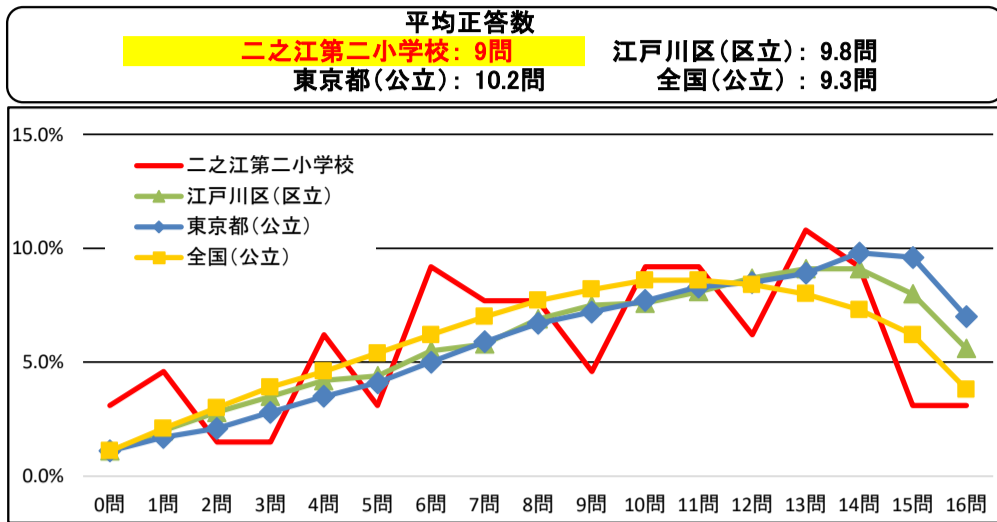


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】二之江第二小学校

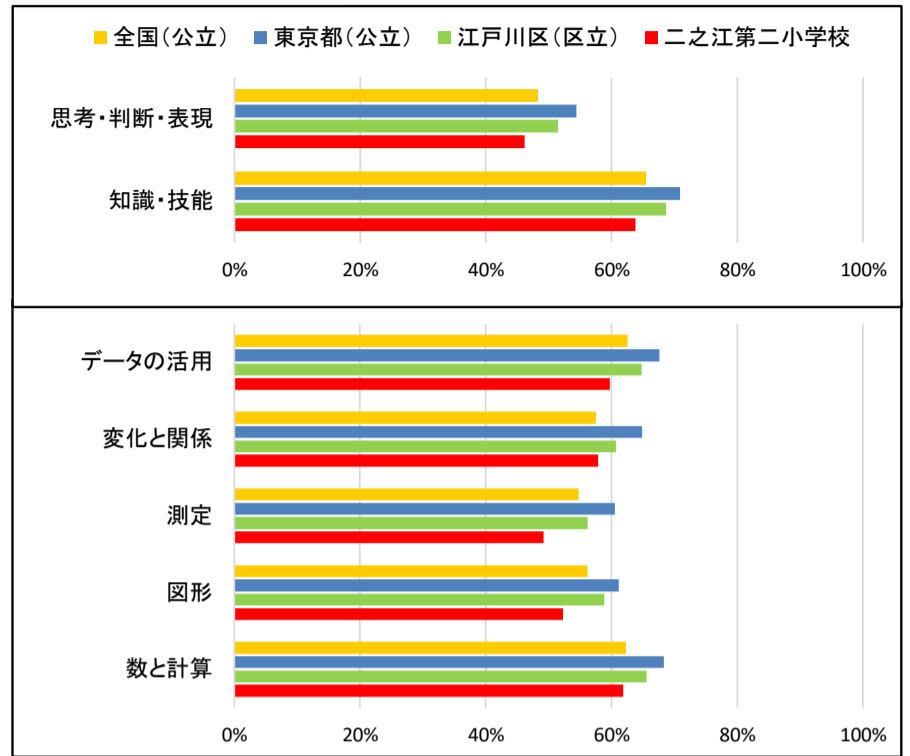
## 正答数分布



【平均正答率の差】

二之江第二小学校	56%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-8.0

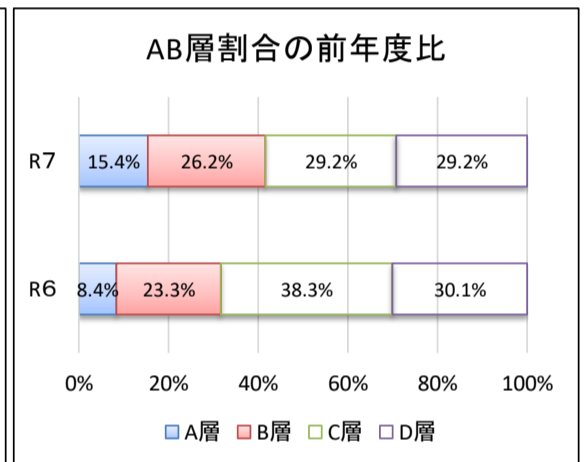
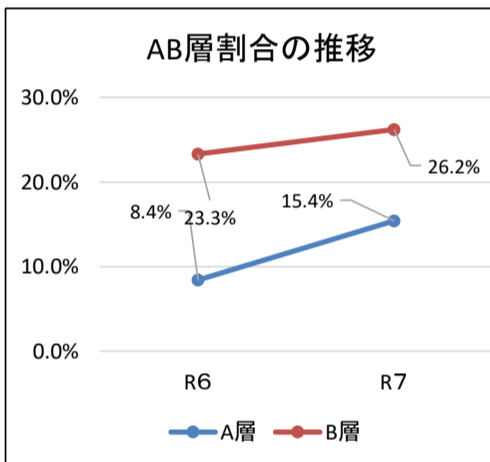
## 「領域別」の結果



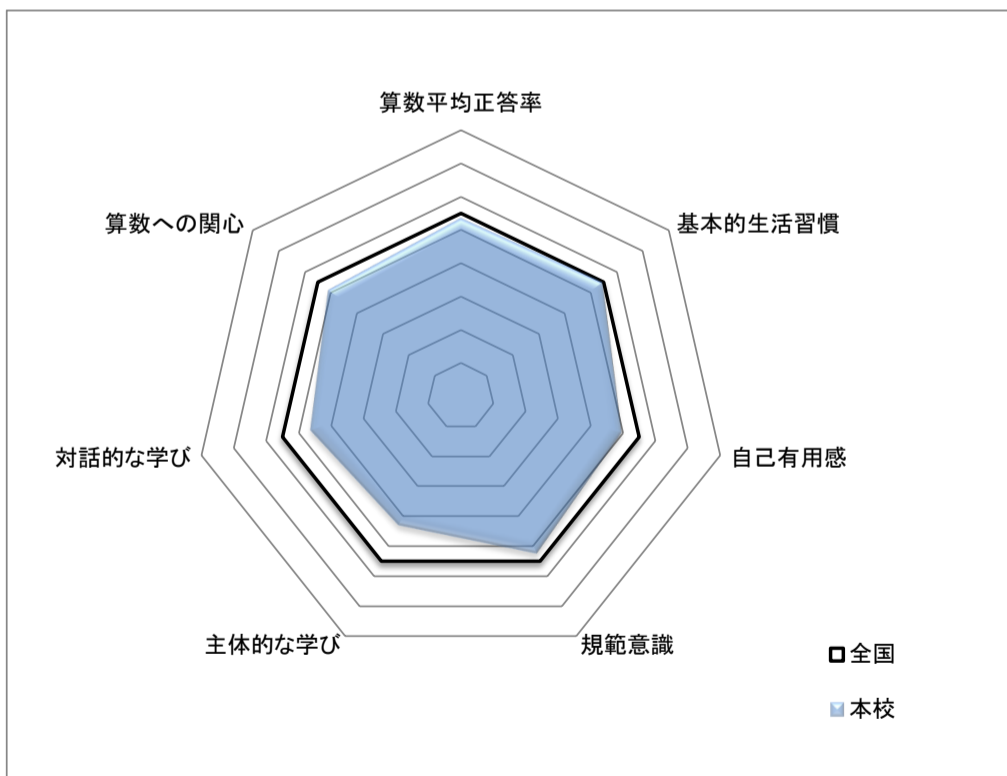
## 四分位における割合（都全体の四分位による）

算数	上位 ← 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
二之江第二小学校	15.4%	26.2%	29.2%	29.2%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

・全国のチャートと本校のチャートを比較すると、ほぼ全ての項目で下回っている。「基本的な生活習慣」、「規範意識」、「算数平均正答率」は全国との差が小さいが、「主体的な学び」、「対話的な学び」においては、全国との差が大きい。

### 《家庭・地域への働きかけ》

・筆箱や道具箱など学習に関する持ち物の統一化を図る学習スタンダードを活用しながら、家庭と連携し基本的な学習習慣の定着を図ることができるよう働きかけをしている。  
 ・学習ボランティアを募集し、支援が必要な児童や学級に入り、学習の定着を図っている。  
 ・放課後学習教室「EDOSク」の参加を促している。

### 《現状把握》

#### ●AB層の割合と取組内容について

R6年度とR7年度を比較すると、R7年度のA層はR6年度より約10%減少し、B層はR6年度より約5%上昇している。AB層として考えるとR6年度より約4%減少している。

#### 《学校の取組》

##### ・教員の指導力向上

・校内研究では、テーマ「確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 ～算数科の基礎学力向上を図る授業改善を通して～」として行っている。問題解決型の授業を行い、学習したことを次の学びに生かそうとする児童の育成を目指している。  
 ・校内のOJT研修では、主任教諭が講師となり、指導に役立つポイントを教えて、指導力向上を図るための研修を行っている。また教諭も長期休業中に参加した研修について報告会を行い、指導力を向上させる取り組みを行っている。

##### ・基礎学力の保障

・毎週水曜日の朝学習では、算数に特化した朝学習を行っている。1学期は、四則計算の中でも特に九九の学習を中心に取り組みをした。2学期以降は、学年に応じて、東京ベーシックドリルや100マス計算、文章問題を活用して基礎学力の定着を図っている。  
 ・4年生、5年生は東京ベーシックドリルを活用し、苦手な単元が一目でわかる「学習カルテ」をつかった。カルテに基づいて、苦手な単元の学習を主体的に行い基礎学力の定着を図っている。

##### ・学習習慣の確立

・家庭学習は、学習時間を学年×10分を目標に取り組むように指導している。漢字ドリルの学習だけでなく、プリント学習やタブレットで行うデジタルドリルの学習も行っている。

##### ・AB層への育成

・基礎基本の学習内容を活用した問題に取り組む。  
 ・教科書を活用し、例題問題を問題解決型で解き、授業最後には適応問題を解き定着度を確認する。